

茗溪会の学生活動支援事業（平成23年度）

茗溪会は母校への支援事業の一つとして学生活動支援金を出していますが、9月12日に交付式を行い、今年度の支援団体および個人に、江田昌佑茗溪会副理事長から決定通知書が手渡されました。

今年は学内学生の17団体と1個人が申請されましたが、8月31日の審査会で12団体と1個人が選ばれ、総額約300万円の助成が決まりました。今年の支援団体は次のとおりです。

団体等名	申請目的等
（文科系課外活動団体）	
斬桐舞 (キリキリマイ)	ユニバーサルソーランによる地域活性化プログラム 「鳴子でつなぐ筑波とつくば！」 老若男女・障がい・国籍・経験に問わず、みんなでYOSAKOIを楽しむ環境を創りだすため。市民の社会参加の促進、安全に対する情報提供を行う。
（体育系課外活動団体）	
硬式野球部	「神宮で勝つ」ための北海道合宿 首都大学秋季リーグ戦・横浜市長杯を勝ち抜き、11月に行われる神宮大会に出場し勝利するため夏に合宿を行うが遠征費等の必要経費が高額となるため。
サイクリング部	「つくばクライフガイド」 大学周辺の自転車事故が多発していることの原因として、自転車マナーにあると考えサイクリング部主導のもと交通パンフレットを作成し、来年4月の新入生オリエンテーションに配布し、改善を図る。
ダンス部	「第49回筑波大学ダンス部公演」 より良い作品発表の場として、定期公演で北千住シアター1010のホールを使用しているが、ホール使用料等が高額であり経費を、自己負担では補えないため。
バドミントン部	「バドミントン普及活動」 地域の小中学生を対象としたバドミントン普及振興によるバドミントン文化の発展、ジュニア生徒の競技力向上及び人間性の向上を目指すため。
ライフセービング部	「競技用フィンでのトレーニングによる部員全員の競技力向上」 海水浴シーズン中における監視・救助活動、海浜に関する知識の啓蒙啓発、海浜美化活動および環境保全、地域社会との交流、救助技術の向上、人材の育成・普及、海浜に関する情報収集といった活動を行っているが、特に人命救助の技術向上のためには、効果的なトレーニングができるよう競技用フィン・ハーフソックスの導入が必要のため。
（芸術系課外活動団体）	
芸術系サークル 連合会	「芸術系サークル連合会課外活動」 所属団体の金銭的負担の軽減、地域との交流活動や、幅広いサークル活動を行うため。
応援団WINS	「筑波大学を元気にする」 部員の増加に伴い衣装及び遠征費が不足しているため。
（文科系一般学生団体）	
つくば院生ネット ワーク（TGN）	「つくば院生ネットワーク（TGN）の推進活動」 「学長懇談会」を発端とし、志同じく集まった大学院の団体であり、学園祭に「学術研究企画」の充実、世界に発信する活力あふれる人材育成・大学院生の活動による筑波大学ブランド力強化のため。
HS CaT	「学生宿舎敷地内における野生猫の保護・管理」 猫が好きな人も嫌いな人も納得ができるよう、宿舎猫の頭数を管理し、動物愛護の観点から学生の問題として、避妊・去勢手術やフードの提供を行うため。
ふるさとつくば ゆいまつり 学生事務局（仮称）	「第1回 ふるさとつくば ゆいまつり（仮称）」 地域住民と学生との交流ならびに「帰って来られる街つくば（つくばの同窓会）」をコンセプトに掲げた祭りを開催し、つくば市全体を盛り上げていくための運営経費。
筑波学生文芸賞 運営委員会	「第4回 筑波学生文芸賞」 大学全体の創作活動活性化を目的として創設し、公募制の賞を設立して常に新しいものを追い求める「場」を提供していくための冊子作成資金の捻出ができないため。

(個人)

人間総合科学研究科
学校教育学専攻
木原 洋一

「スポーツ教育によるボランティア活動・地域貢献活動

—体操教室の実践をとおして—」

スポーツ教育学の知見を活かし横浜市で地域貢献活動として、幼稚園児・保育園児・小学生を対象に「体を動かす楽しさ」を子供たちに伝えるため、体操教室を開催しているが、体育施設使用料・体育器具等を購入するため。